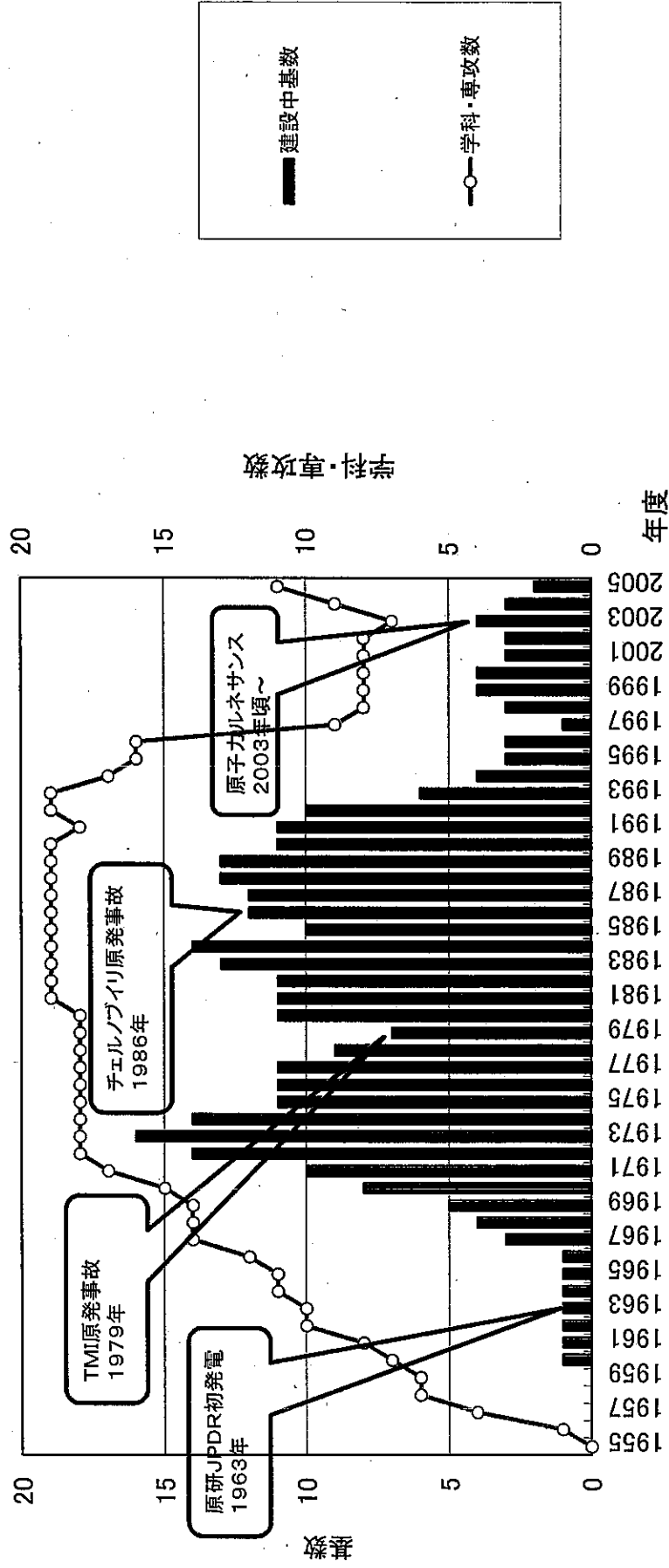


3. 原子力発電に関する人材基盤について

原子力関係学科・大学院専攻数と建設中の原子力発電所基数の推移

○原子力関係学科・専攻は建設基数に先んじて増えており、1970年から15年ほど維持し続けたが、建設基数の減少、大学の講座の大括り化などが要因となって減少している。

原子力関係学科・大学院専攻数と建設中基数

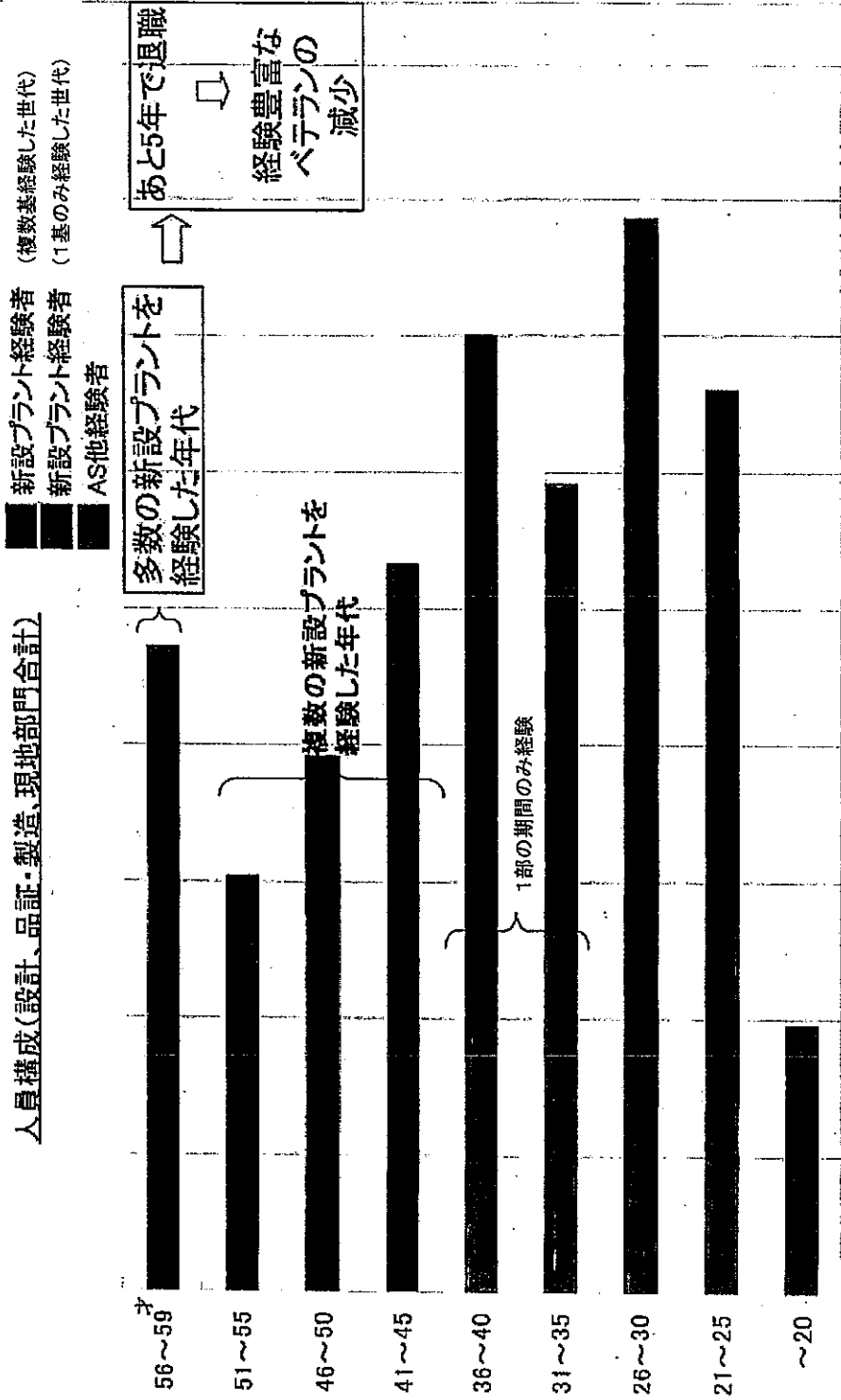


出展: 原子力人材育成関係者協議会「原子力分野の人材に係る
 定量的分析結果原子力人材育成ロードマップ(中間取り纏め)報告書
 平成20年7月 社団法人日本原子力産業会議 一部加工

プラントメーカーの人員構成 ～イメージ～

○30代は一部期間を経験。40代以上がプラント建設を経験。56歳以上が多数の新設プラントを経験しているが、あと5年で退職（経験豊富なベテランの減少）。

3. プラント建設経験者の人員構成

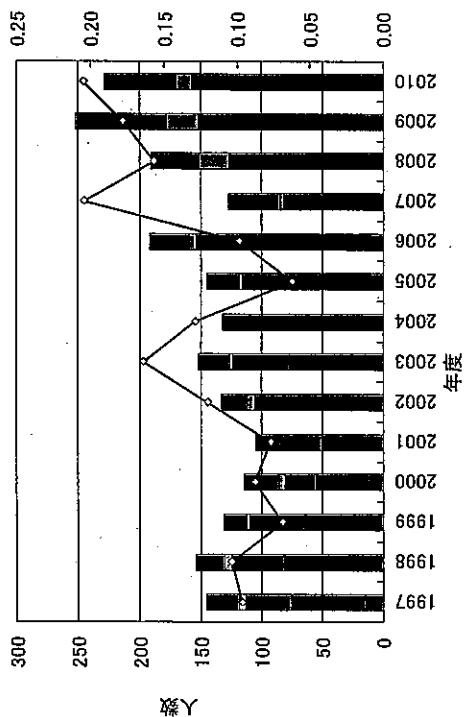


※営業・管理部門は含まず

(参考)原子力工学科及び人数の推移

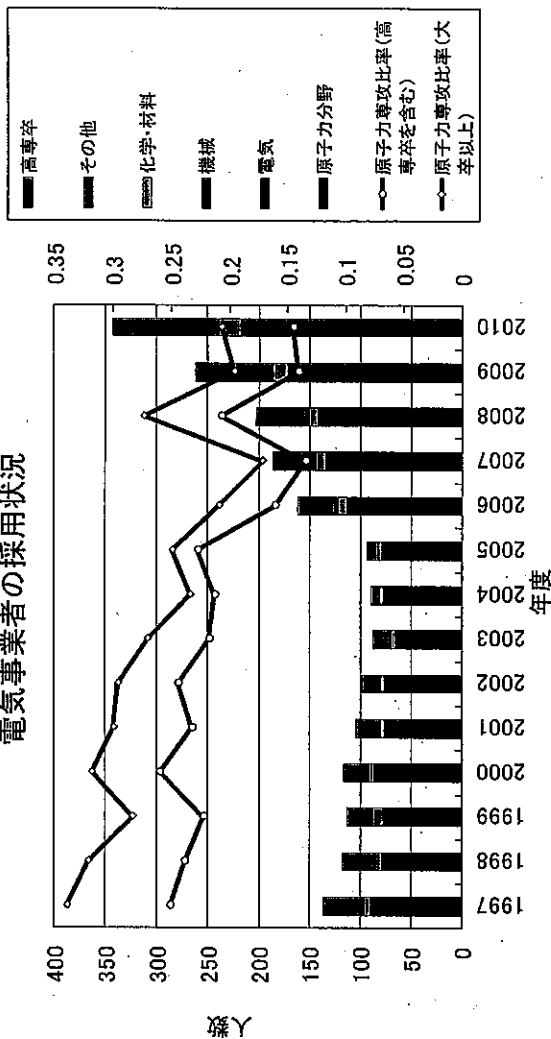
○若い原子力人材を確保するためには、原子力を学ぶインセンティブを高めるとともに、大学や大学院における教育の提供が必要。

メーカー(6社)の採用状況



メーカー6社: JHI、三菱、日立製作所、富士電機システムズ、三菱重工業、三菱電機
社団法人日本原子力産業協会調べ

電気事業者の採用状況



*原子力専攻比率:
原子力専攻採用者数/全採用者数

社団法人日本原子力産業協会調べ

これまでの建設ペース

○ これまで、ほぼ1～3年に一基のペースで国内建設を行ってきた(三菱重工の例)。→各建設工程における専門業務が継続的に発生し、経験の蓄積・維持、若い世代への技術の伝承が成されてきた。
 ○ 他方、平成4年～16年の間、新規建設のない期間も存在。

